

山城ガールむつみの出陣のスズメ

「いざ、多古藩陣屋へ！」の巻

現在の多古第一小学校の地には、かつて多古藩の陣屋が置かれていました。

古くから千葉宗家ゆかりの地でもある多古は、水陸の要衝地に当たります。そのため、徳川家康の関東入封に際し、家康の重臣である保科正光が多古に入りました。そして、その後は一門衆である久松松平氏が多古藩主となりました。

多古藩は一時廃藩となっていた時期もありますが、久松松平氏が入ると、1万2千石の大名の政庁として陣屋が築かれ、そのまま明治まで存続したのです。一部残る石垣が往時を偲ばせます。

陣屋は明治になって多古県庁舎に使用されました。多古県が廃止になると、明治6年に競売に出されましたが、その時の書類に陣屋の施設が細かに記されています。それによると、面積は邸地800坪、山地500坪、囚獄囲地100坪の広さがあり、御殿の玄関は式台つきの立派なものだったようです。明治27年にその玄関は解体されましたが、玄関正面欄間に飾られていた松平氏家紋の木彫は現在も保管されています。

(その木彫をもとに御城印の家紋をデザインしました)※木彫はコミュニティプラザに展示してあります



↓この石積みは
↓後世のもの。



保科氏って？

天正18年(1590年)に、家康から多古に配属された保科氏。保科氏はもともとは信州の武士で、甲斐武田氏の家臣です。平家物語にも登場する一族で、詳細は不明ですが、鎌倉時代や南北朝時代の史料にも、その名が散見されます。保科正光は武功に優れ、大坂の陣でも手柄をあげました。徳川秀忠の庶子である幸松丸(のちの保科正之)を養子にしたことから、徳川家からの信頼のほどがわかり、その保科正光が多古に配属されたことから多古の重要性が浮かび上がりますね！

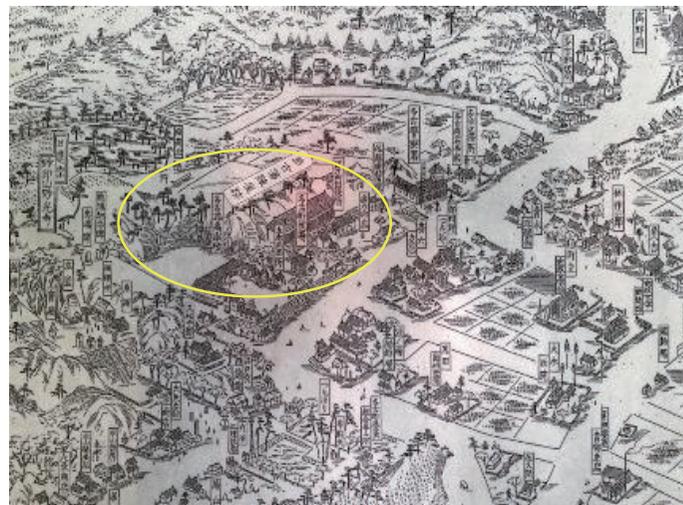
久松松平氏って？

多古の松平氏の本姓は久松氏です。その祖先は菅原氏であるといわれるため、家紋には「梅」を使い、天満宮を祀っています。徳川家康の生母お大の方は、松平広忠に嫁いで家康を産みますが、間もなく離別しました。

お大はその後、久松俊勝と再婚して生まれた子たちが家康と同母兄弟であったため、後に家康の本姓である松平姓を賜り同族となりました。そのため、徳川家臣団の中では譜代の一門衆です。

久松松平家の江戸藩邸は、上屋敷が小石川(文京区)に、中屋敷は大久保(新宿区)にありました。

墓は多古町の妙興寺です。



黄色の囲みが多古藩陣屋の中心



この石垣は陣屋の当時のものです。
神社の裏手にあります。探してみてくださいね。

多古城郭保存活用会のHPができました！
検索してみてくださいね！

山城ガールむつみ



並木城にて



多古にGO!

陣屋前の街道は趣あり♡



多古藩陣屋の絵図を見てみると、周囲は石垣や土塁で囲まれていて、外側には堀も描かれています。北側の塁線は屈曲しているため、防御制を高めていたように見て取れます。門は現在の多古小学校門の位置ではなく、その北側にあったようです。上の地図を見ながら歩くと、街道の雰囲気が残っていて楽しいですよ♡



遊びにきてね♡

多古の新米かあさん
ふっくらたまこ